
2009年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2009年1月5日(月)午前10時30分 TOKYO FMホール～

<代表取締役会長 後藤 亘 挨拶>

今年の世界経済は大変厳しい状況であります。メディアにおいては、今回の世界恐慌が発生する以前から、激変は始まっています。勝利の道を歩むための構造改革のひとつの道として、音声放送のデジタル化があると信じてきました。今年はいよいよ私たちの次のステージであるマルチメディア放送、そのデジタル化の結論が見える年です。

次のステージを創り出すためには、必死の戦いをひとりひとりが実践し、泥まみれになって勝ち取らなければなりません。

また、既にエンタテインメントの主流がコンテンツからコミュニケーションに変わったといわれて数年経ちますが、当社の企業理念である「共感と感動」は、そのコミュニケーションの原点であります。それは、送り手即ち私たち放送マンの教養が創り出すものであり、その教養は単なる知識ではありません。好奇心旺盛さを持ち、己の情感で感じ得た情報であります。感動と共感を得るためにはリスナーの心やお客様の心を読む洞察力が必要であり、全ては思いやりの精神、相手を思いやる心をしっかり持つことから始まります。

今こそそのような放送の原点に立ち返り、FMの新編成を生み出すことが必要だと思えます。これが構造改革の第2の道であり、大胆に挑戦されることを期待します。

その結果、今年は昨年より更にいい会社に成長させ、来年の40周年に向かっていきたいと思えます。

<代表取締役社長 富木田 道臣 挨拶>

我々をとりまく環境が世界規模の大きな転換期を迎えている今、地球は時間と距離の概念を越え、ますます狭くなろうとしています。あらゆる生命を大切にし、異文化を認め、相互理解のもと限界のない新たなパラダイムが求められております。

我々は昨年10月より、アースコンシャス（地球を愛し感じる心）とヒューマンコンシャス（生命を愛し、つながる心）、この二つのステーションキャンペーンの哲学を象徴するコミュニケーションワードとして「80ポイントLOVE」を世に送り出しました。

いよいよ本年は「80ポイントLOVE」に象徴される哲学を一人ひとりの活動の原点におき、新しい価値の創造に繋げ、また編成と番組作りを基本から見直していきたいと思えます。

- 1、どのようなプロフィールを持った人に聴いていただきたいのか再度ターゲットを明確にすること
- 2、聴いていただきたい人が聴いてくれていることを常に確認、立証すること
- 3、聴いていただきたい人の共感を得る番組内容を提供できているか常に検証すること

この3点につき制作者はもちろん、営業や様々な立場の社員が聴取者の立場に立って大いに議論すべきだと思えます。

来年2010年には、開局40周年を迎えます。既に提出されているプロジェクト計画を、プレ年である今年からスタートさせます。そして2011年に始まるマルチメディア放送に向けての第一次事業計画をこの3月までに具体化することになっております。昨年10月にはNHK、AM、FM共同で、統一技術方式を総務省へ提案しました。マルチメディア放送の様々な実験がこの1月よりユビキタス特区で実施されます。

T FMのグループ再編成につきましては、ジグノシステムジャパンとT FMインタラクティブが合併し、この1月1日より新生ジグノシステムとして再出発しました。

今後もT FMコミュニケーションズグループの誇りのある絆作りを強化し、相乗効果を大きく計っていきたくて考えております。